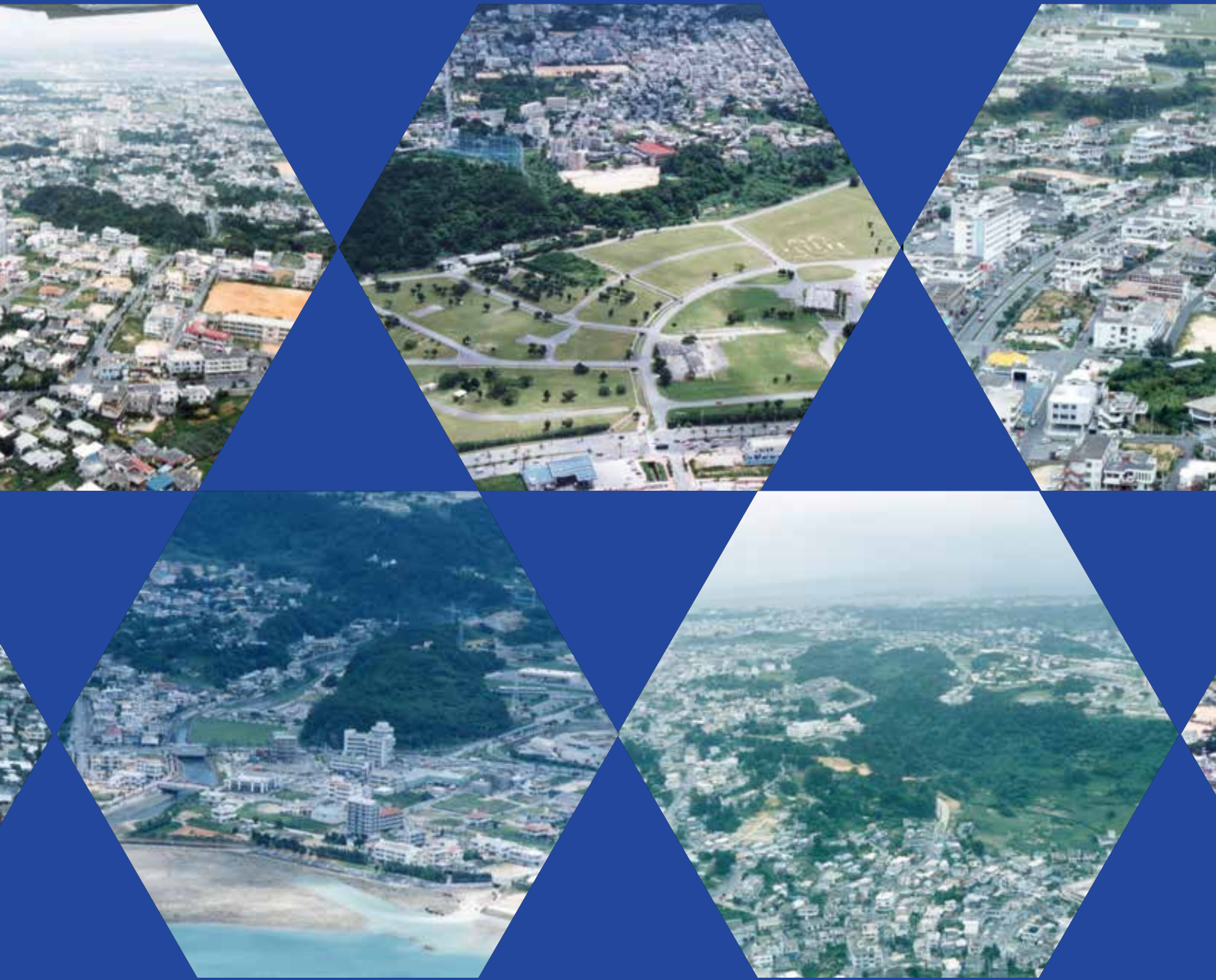


# 空からみた北谷

—空中写真でみる町の変化—



北谷町公文書館

# はじめに

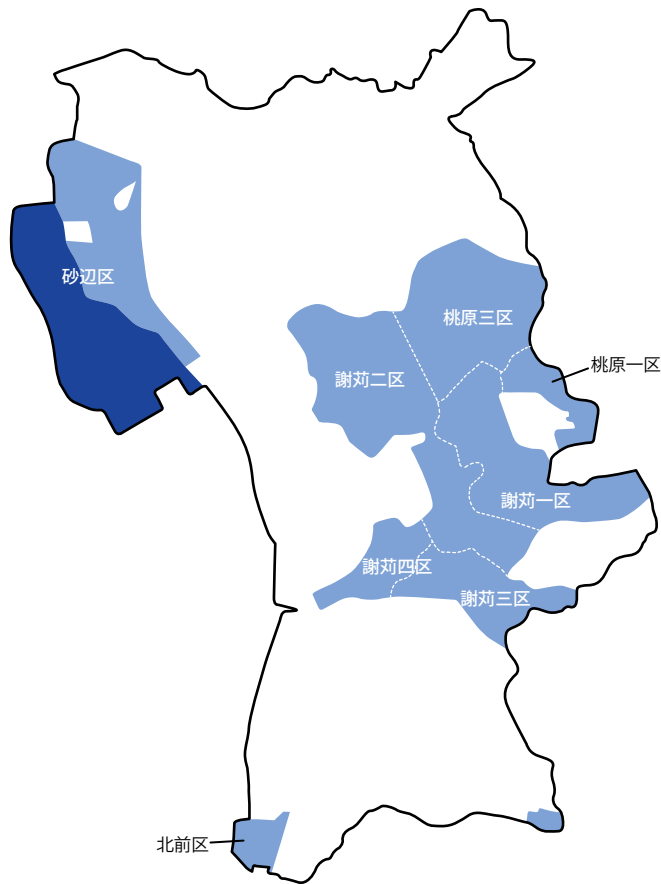
北谷町は沖縄戦を境として大きく土地利用が変化した地域のひとつです。

1945年（昭和20）4月に読谷から北谷にかけての海岸から米軍が上陸し、住民や軍人を収容所に収容しながら沖縄島の南北に分かれて進撃していきました。北谷村民の旧居住地復帰は村域が軍政府の要地であったため大幅に遅れ、上陸から1947年（昭和22）までの2年間に故郷から離れた収容所で暮らすことになりました。

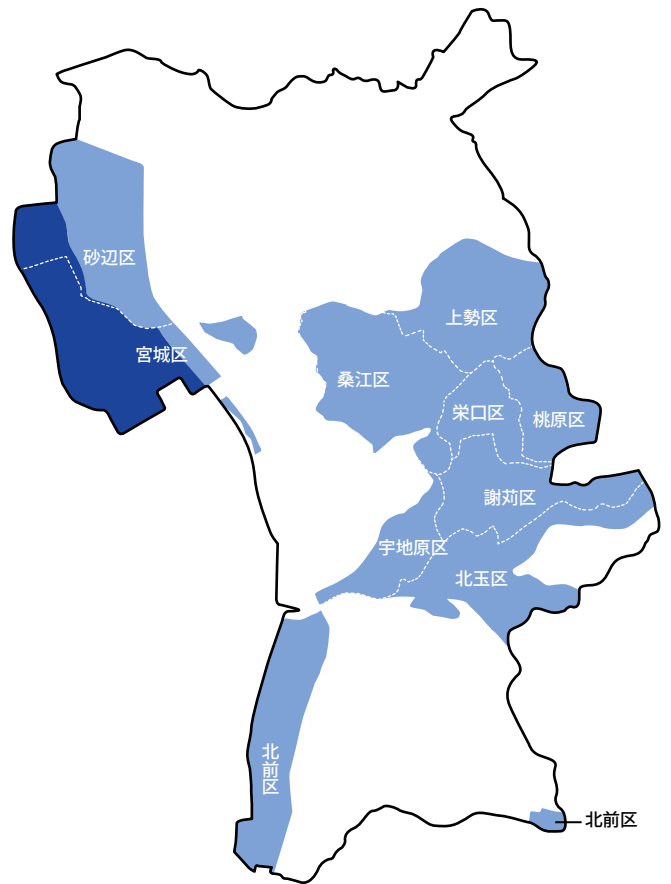
北谷における行政区は、帰村が許可された1947年（昭和22）に桃原区・謝苺区・嘉手納区の3区が設置されたことに始まります。戦前に集落があった土地のほとんどが軍用地となり元の字に戻る事が出来なかったため、居住が許されたわずかな土地に行政区を設置して新たな集落の拠点を築いていくことになりました。

戦後、土地は大きく軍用地と民間地（行政管轄区域）に分けられ、それぞれの用途に応じて利用されることになりました。町総面積における軍用地の比率は、1953年（昭和28）に79.2%、1972年（昭和47）の復帰の時点で65.3%、2008年（平成20）に52.9%を軍用地が占めている現状です。町域には嘉手納飛行場、キャンプ桑江、キャン

【行政区の変遷 - 復帰以降】



1972年（昭和47）

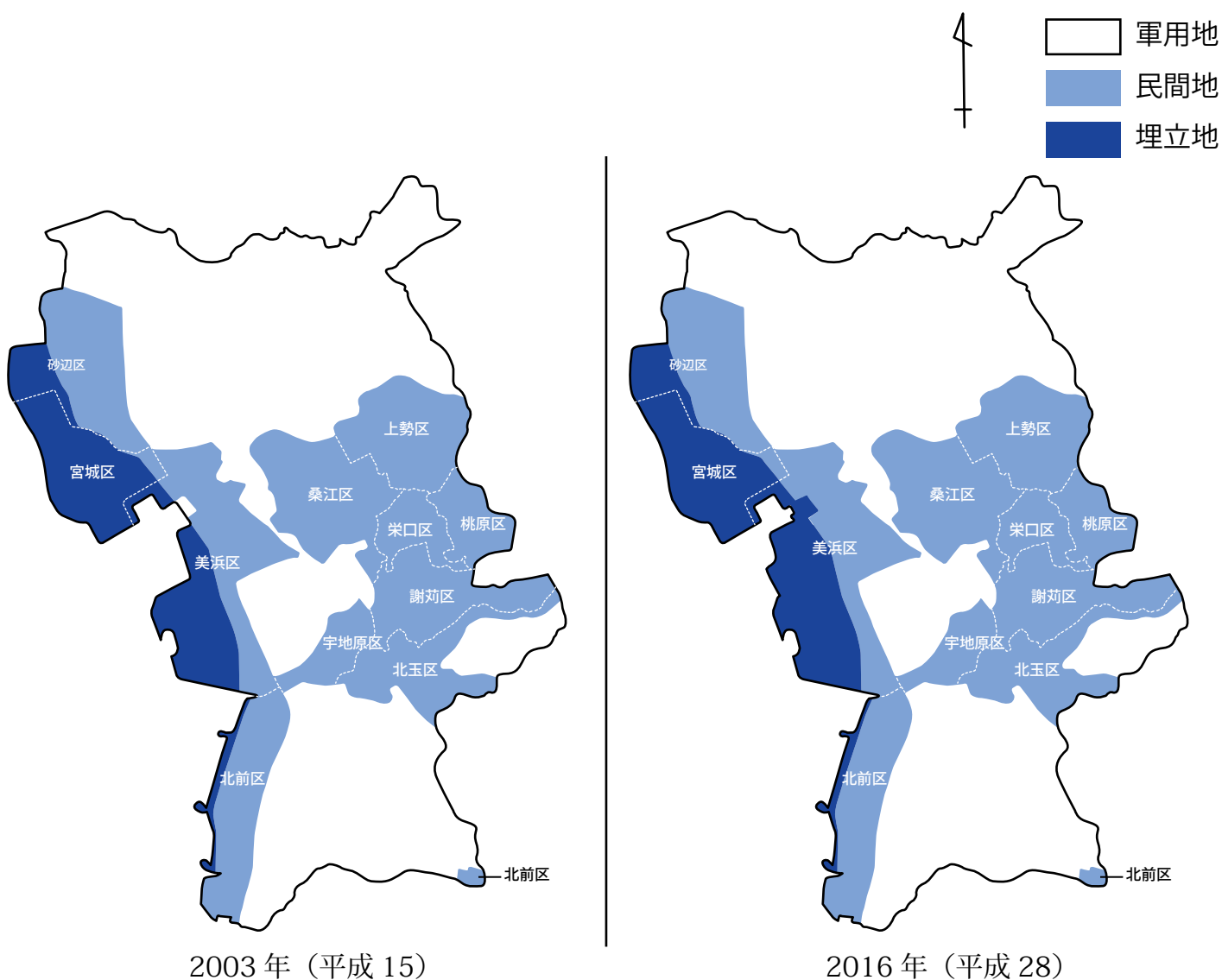


1985年（昭和60）

プ瑞慶覧、陸軍貯油施設などの広大な米軍基地があり、そのほとんどが国道 58 号沿いの利便な平地に立地しており、地域開発や産業振興の大きな障害となっています。

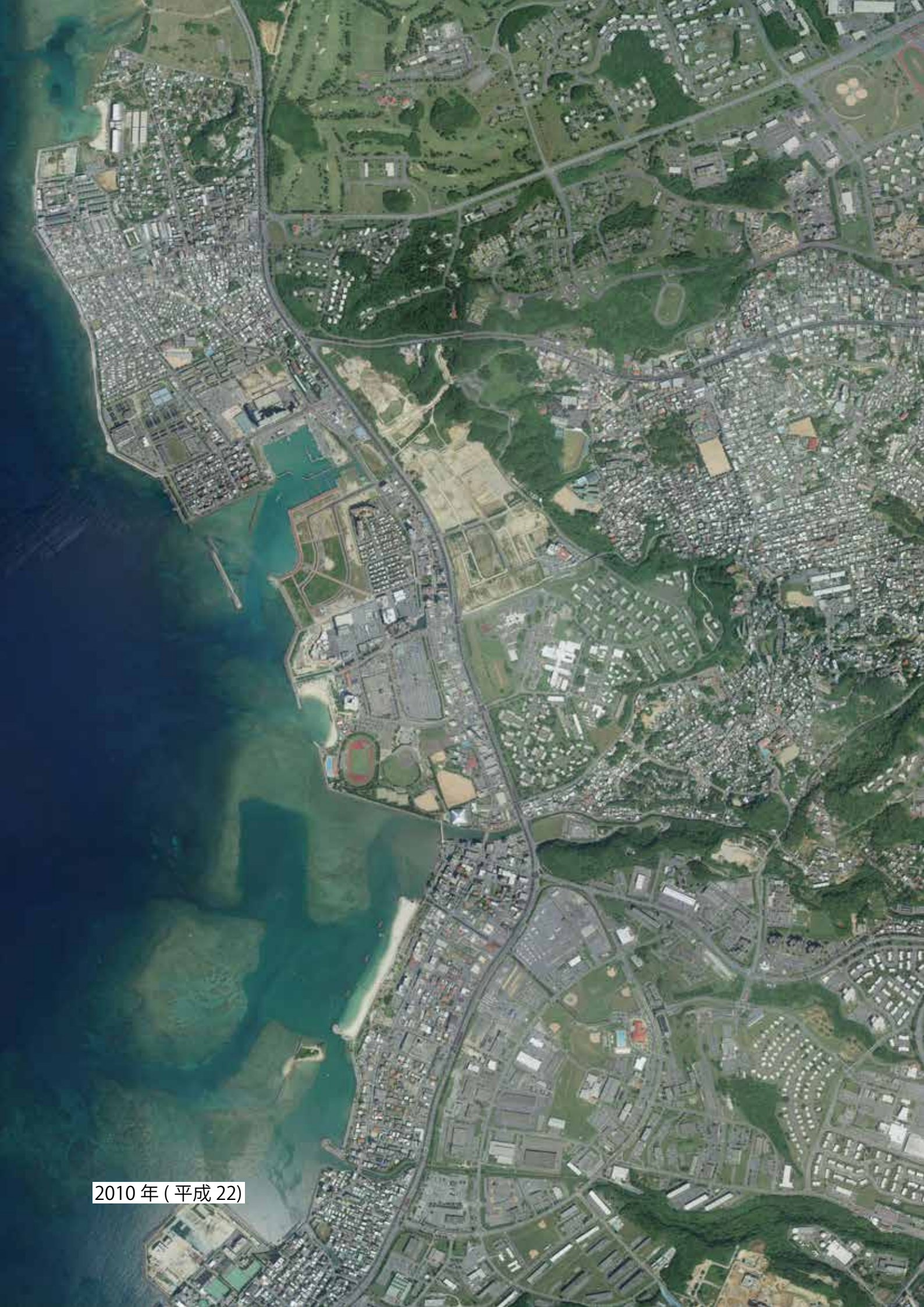
最初の行政区設置から現在まで、区の再編は 7 度おこなわれました。目まぐるしい行政区の変化は、軍用地の段階的な返還と山間部の開発や海岸部の埋め立てによる住宅地の拡大に対応する形でなされてきました。航空写真を比較してみると、大半の土地が基地に占有され埋立地が出現していること、農用地や山林・原野が大きく後退し市街地が広がっていることなどわかります。

今回の展示は、現在の 11 行政区ごとに 1984 年（昭和 59）と 2010 年（平成 22）の国土地理院撮影の空中写真を合成したものと、さらに北谷町役場が町域の開発状態等を確認するために撮影した 1993 年頃の空中写真をご紹介します。各年代の写真から基地の返還や公有水面埋立事業、区画整理事業などを通じた町の発展と行政区の変遷を確認してみてください。





1984年(昭和59)



2010年(平成22)



## 砂辺区



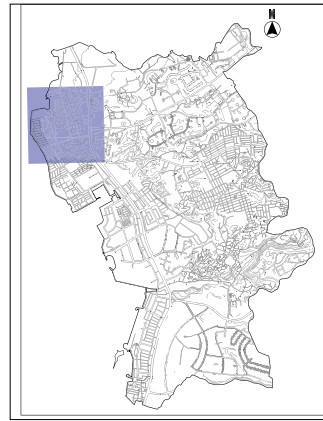
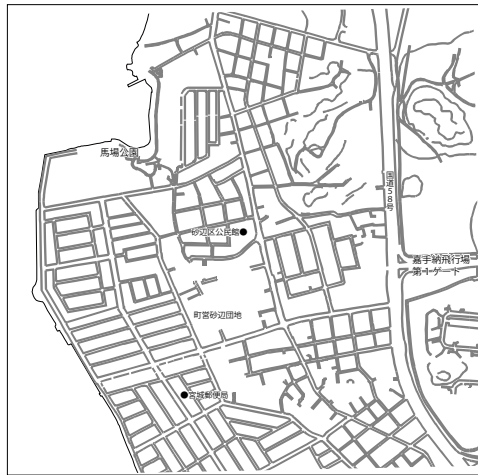
砂辺の大部分は1954年（昭和29）から1964年（昭和39）の間に段階的に返還されました。返還された土地は桃原一区に編入され1956年の行政区再編で砂辺区となり現在にいたります。

戦前は農耕地として利用されていた良好な土地でしたが、返還当時は基地跡地利用計画が策定されていなかったため、米軍の福利厚生施設であるゴルフ場

として長年利用されてきました。1986年度（昭和61）から1988年度（昭和63）の間に砂辺区土地区画整理事業が行われ宅地の整備が進められました。また、日本政府援助による北谷村事業として砂辺・浜川地先の公有水面埋立が実施され、1966年（昭和41）に933,358平方メートルの埋め立てが完了しました。

1984年（昭和59）





2010年(平成22)





浜川小学校

A7002904228 (1993年(平成5)8月撮影)



嘉手納飛行場

国道58号

馬場公園

砂辺屋外運動場

町営砂辺団地

A7002903337 (1993年(平成5)5月撮影)



嘉手納飛行場

馬場公園

町

A7002903350 (1993年(平成5)5月撮影)





嘉手納飛行場

国道 58号

県営砂辺団地



馬場公園

砂辺スポーツランド

砂辺区公民館

93 5 17

A7002903198 (1993年(平成5)5月撮影)



砂辺スポーツランド

砂辺倉庫

国道58号

A7002904390 (1993年(平成5)5月撮影)



国道 58号

県営砂辺団地



嘉手納飛行場  
第1ゲート

国道 58号

A7002904228 (1993年(平成5)8月撮影)



## 宮城区



浜川地域は1957年（昭和32）と1958年（昭和33）に返還され桃原一区に編入されました。1956年（昭和31）の行政区再編で砂辺区となり1980年（昭和55）の再編で砂辺区から分離し宮城区となりました。

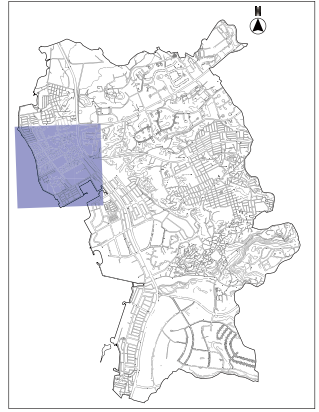
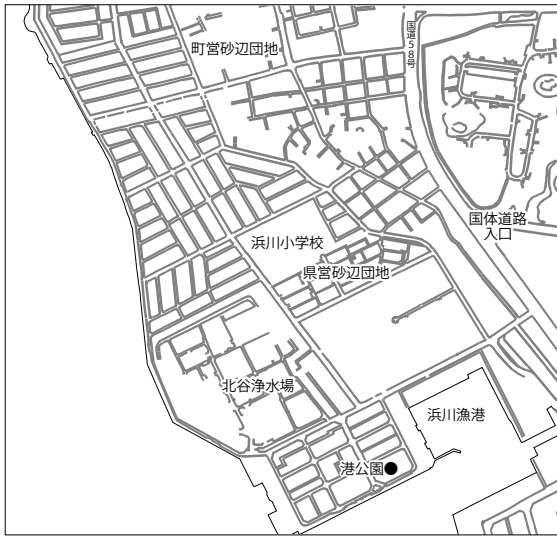
日本政府援助による村事業として砂辺・浜川地先の公有水面埋立が企画され、1966年（昭和41）に埋め立てが完了しました。さらに1971年（昭和46）には、民間企業による浜川地先公有水面埋め

立てが完了し、1977年（昭和52）にも浜川地先公有水面を新たに埋立てし、字港が設定されました。

1954年（昭和29）に砂辺地域の米軍基地が返還され元住民が居住を始めますが、砂辺からは北谷小学校・北玉小学校ともに遠く、通学の利便性を考慮して児童を嘉手納小学校に委託していました。1977年（昭和52）に宮城区・砂辺区・宇地区を校区とする浜川小学校が開校し、この問題は解消されました。



1984年（昭和59）



2010年(平成22)



A7002903113 (1993年(平成5)5月撮影)



A7002904206 (1993年(平成5)8月撮影)



A7002904402 (1993年(平成5)8月撮影)



A7002903168 (1993 年 (平成 5) 5 月撮影)



A7002904227 (1993 年 (平成 5) 8 月撮影)



影)



A7002903019 (1993 年 (平成 5) 5 月撮影)



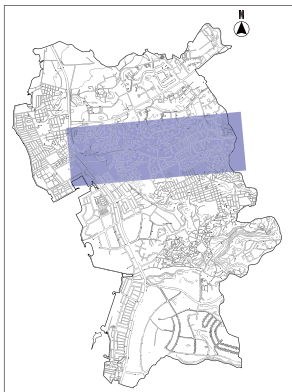
# 上勢区



1946年(昭和21)に上勢頭・桃原、越来村山内の一部に移動が許可され、上勢頭の大毛(ウフモー)に先遣隊事務所が設置されました。1947年(昭和22)には、越来村(現・沖縄市)嘉間良から上勢頭の先遣隊事務所に北谷村仮役所が移され、北谷村に桃原区・謝苺区・嘉手納区の三区が設置されました。1949年(昭和24)に桃原区は一区から三区の3つに再編され、1980年(昭和55)の行政区再編で桃原三区が上勢区となりました。

1970年(昭和45)に嘉手納飛行場の一部が返還され、1973年(昭和48)の若夏国体開催時に国道58号とコザ市(現沖縄市)を結ぶ県道23号(国体道路)が開通しました。これに伴い、上勢頭地区と桑江地域の宅地開発が本格化しました。

上勢区の土地区画整理は2回行われており、1回目は1959年(昭和34)と1970年(昭和45)に返還された嘉手納飛行場の返還地で、1978年度(昭和53)から1987年度(昭和62)にかけて住宅地の造成を行いました。2回目は1996年(平成8)に返還された嘉手納飛行場の南側の土地に1996年度(平成8)から1999年度(平成11)にかけて、公共施設の整備改良と宅地利用の増進を図る目的で実施されました。





1984年(昭和59)



2010年(平成22)



A7002903094 (1993年5月撮影)



A7002903224 (1993年(平成5)5月撮影)



A7002903223 (1993年(平成5)5月撮影)





A7002903148 (1993年(平成5)5月撮影)



県道2号(国体道路)

A7002903191 (1993年(平成5)5月撮影)



影)



A7002903226 (1993年(平成5)5月撮影)



## 桃原区



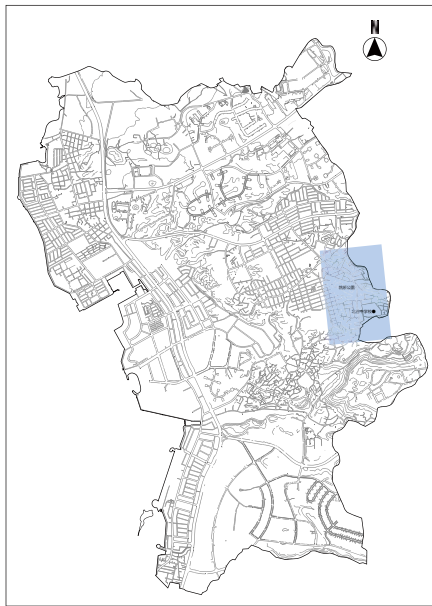
終戦から1年後の1946年(昭和21)に上勢頭・桃原、越来村山内の一部に移動が許可され、1947年(昭和22)に桃原区・謝苺区・嘉手納区の三区を設置し桃原(現在の字吉原520番地付近)に米軍廃材を利用した木造トタンぶきの庁舎を建設、ここに戦後初の北谷村役所が発足し村行政が本格的に機能を始めることになりました。1949年(昭和24)に桃原区は一区から三区の3つに再編され、1955年(昭和30)には桃原二区の大部分が沖縄市に編入され残りは桃原一区に統合されました。1956年(昭和31)の再編で砂辺区が桃原一区から分離し、

1980年(昭和55)の再編で桃原一区は現在の桃原区となりました。

1945年(昭和20)に軍用地に接収され、瑞慶覧通信所として使用されていた土地が1976年(昭和51)に全面返還され、1983年度(昭和58)から1987年度(昭和62)にかけて計画的宅地化を推進するため桃原地区区画整理事業が導入されました。区画整理地の北側には起伏に富む敷地を利用した町内の近隣公園では最大規模の桃原公園が1990年(平成2)に開設しました。



1984年(昭和59)



2010年(平成22)



A7002903239 (1993年(平成5)5月撮影)



A7002903239 (1993年(平成5)5月撮影)



A7002903221 (1993年(平成5)5月撮影)



A7002903111(1993年(平成5)5月撮影)



A7002904040(1993年(平成5)8月撮影)



A7002904159(1993年(平成5)8月撮影)

影)



## 栄口区



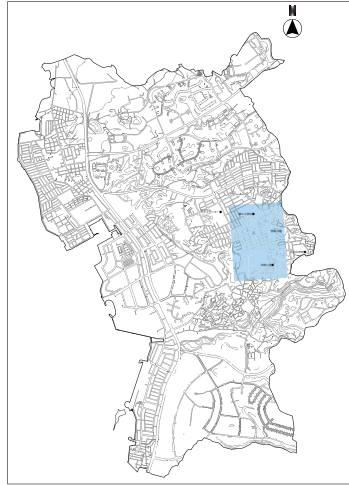
1947年(昭和22)12月に字吉原栄口原・宇久殿原・謝苅原の一部が居住許可地に加えられ謝苅区に編入されました。その後、5回の行政区再編を経て1980年(昭和55)の再編で謝苅一区から分離して栄口区が誕生しました。

早い段階で居住許可がでていた県道24号沿い平和之塔付近には北谷村役所や郵便局があったものの、県道北側の土地は起伏の激しい山林原野で長い

間放置されていました。1967年(昭和42)に桃原団地の通称で民間主導による宅地造成が進められ、1971年(昭和46)6月には北谷村初の公営住宅である栄口住宅が竣工しました。この宅地造成で謝苅一区の世帯数は1967年(昭和42)の196世帯から1973年(昭和48)の765世帯と約4倍に増加しました。

1984年(昭和59)





宇久殿中央線 (1980年代頃)



2010年(平成22)



町営グラウンド

ポリテクセンター

A7002903314 (1993年(平成5)5月撮影)



ポリテクセンター

A7002904150 (1993年(平成5)8月撮影)



A7002903234 (1993年(平成5)5月撮影)





北谷第二小学校



桃原公園

A7002904161 (1993年(平成5)8月撮影)



栄口区公民館

A7002903316 (1993年(平成5)5月撮影)



ポリテクセンター

影)



ポリテクセンター

A7002903375 (1993年(平成5)5月撮影)



## 桑江区

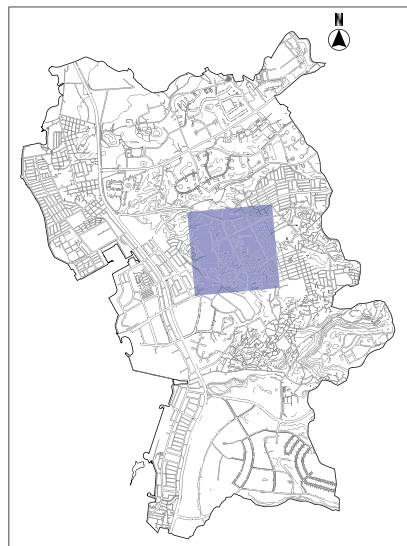
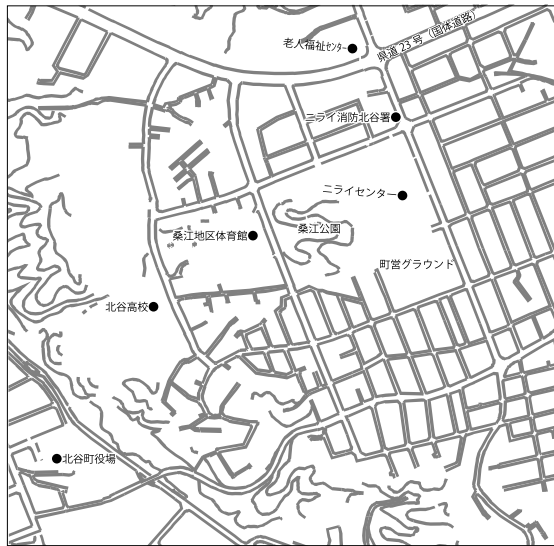


1957年（昭和32）に返還された字桑江の奈留川原・見嘉作原・御殿地原・狭原・上樋川原は、山間部であったため長い間放置されていましたが、1966年（昭和41）から見嘉作原の一部に外人向け貸住宅や一般住民の住宅が建設され始めました。返還時、桑江地区は謝苅二区に編入されましたが、1980年（昭和55）の行政区再編で分離して桑江区が誕生しました。

復帰記念事業として県道23号（国体道路）の建設が開始されたのにもない、1975年（昭和50）頃から桑江地域の開発が本格化しました。桑江地域では振興計画にもとづいて開発整備がおこなわれ、住宅地のなかに中央公民館（現在はニライセンター）。桑江総合運動場、北谷町消防本部（現・ニライ消防北谷署）、県立北谷高等学校、北谷町初の近隣公園である桑江公園などの公共施設がつけられました。

1984年（昭和59）





2010年(平成22)





桑江公園

町営グラウンド

A7002904244 (1993年(平成5)8月撮影)



町営グラウンド

A7002903321 (1993年(平成5)5月撮影)



嘉手納飛行場

桑江第1タンクファーム

A7002903349 (1993年(平成5)5月撮影)



A7002904316 (1993年(平成5)8月撮影)



A7002904170 (1993年(平成5)8月撮影)



A7002904169 (1993年(平成5)8月撮影)

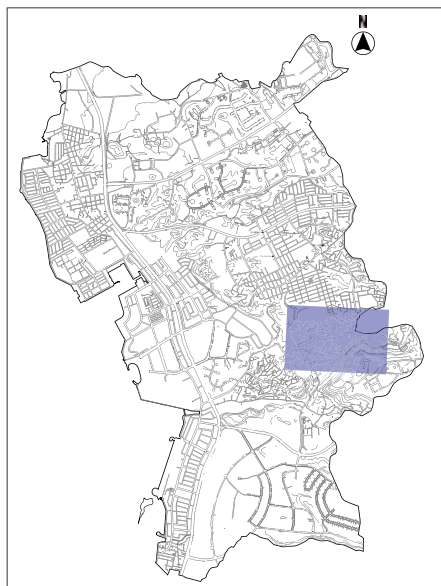


# 謝苺区



1946年(昭和21)に上勢頭・桃原、越來村山内の一部に移動が許可された後、1947年(昭和22)に戦後最初に設置された行政区のひとつである謝苺区が設置されました。その後は断片的に返還される基地跡地を編入しながら、1948年(昭和23)から1952年(昭和27)までには人口の増加にともない謝苺区は4つに分区しました。さらに、1980年(昭和55)の行政区再編で謝苺一区と二区の一部を含む現在の謝苺区が誕生しました。

謝苺区は戦後すぐに居住が開始された地域で、県道24号沿いの起伏のおおひ狭隘な地形に自然発生的に住宅建設がおこなわれた密集住宅地が形成されています。主要道路から離れた新川沿いの傾斜地はうぐいす谷・みどりヶ丘・新川の3つの墓地公園が整備されています。





1984年(昭和59)



2010年(平成22)



うぐいす谷墓地公園

県道24号

A7002903130 (1993年(平成5)5月撮影)



謝刈公園(予定地)

A7002903082 (1993年(平成5)5月撮影)



北玉小学校

A7002903379 (1993年(平成5)5月撮影)





旧北谷町役場

北玉小学校



ポリテクセンター

A7002904148 (1993年(平成5)8月撮影)



北玉小学校

A7002904410 (1993年(平成5)8月撮影)



影)

球陽高校



県営北谷団地

うぐいす谷墓地公園

A7002903311 (1993年(平成5)5月撮影)



# 北玉区



現在の北玉区地域は戦後まもない1946年(昭和21)には移動が許可されました。最初の行政区設置で謝苺区に区画され、1948年(昭和23)に謝苺二区に分離し、さらに1949年(昭和24)に謝苺三区として分離したのち、1980年(昭和55)の再編で北玉区となりました。

謝苺区同様、狭隘な起伏の多い土地に密集した住宅地となりますが、北玉小学校付近には派出所や消防隊・診療所や劇場や商店などが立ち並ぶ繁華街として機能していました。1957年(昭和32)と1959年(昭和34)に丘陵地の玉上地域が一部返還され、しばらくは農地として利用されていましたが、1961年(昭和36)頃からは宅地としても利用されるようになりました。





1984年(昭和59)



2010年(平成22)



北玉小学校

A7002904185 (1993年(平成5)8月撮影)



うぐいす谷  
墓地公園

北玉小学校

北谷城

A7002905071 (1994年(平成6)9月撮影)



北谷城

北玉小学校

A7002904379 (1993年(平成5)8月撮影)



交



影)



北玉小学校

北谷城

A7002905068 (1994年(平成6)9月撮影)



キャンプ瑞慶覧

北谷城

A7002905041 (1994年(平成6)9月撮影)

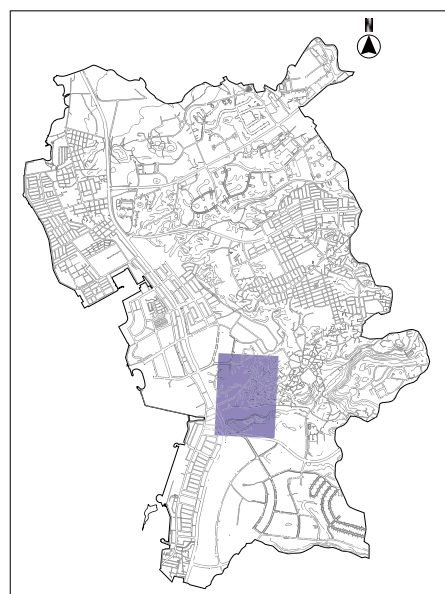


## 宇地原区



現在の宇地原区の大部分は 1946 年（昭和 21）には帰村が許可され謝苺区となり、謝苺入口付近の東宇地原と西宇地原は 1959 年（昭和 34）に返還されました。その後、人口増加にあわせて謝苺区は 4 つに分区し、1980 年（昭和 55）の行政区再編で謝苺二区の一部と四区から宇地原区が誕生しました。

1952 年（昭和 27）頃は世界的に設備投資の増加傾向にあり、金属の需要が急増し、沖縄からのスクラップ輸出が急速に伸びて「スクラップ・ブーム」が到来しました。宇地原区の東側一帯は 1947 年（昭和 22）頃まで米軍のゴミ置場として使用され、廃材やトラック・戦車の残骸まで投棄されていたので、くず鉄を求めて連日多くの人たちが集まりました。



1984 年（昭和 59）



2010年(平成22)



北谷城

A7002904228 (1993 年 (平成 5) 8 月撮影)



キャンブ桑江

A700290428 (1993 年 (平成 5) 8 月撮影)



北谷城

A7002904246 (1993 年 (平成 5) 8 月撮影)





キャンプ瑞慶覧

北玉小学校



キャンプ桑江

北谷城

A7002904172 (1993年(平成5)8月撮影)



キャンプ桑江

A7002904138 (1993年(平成5)8月撮影)



キャンプ桑江

影)



北谷城

謝対入口

A7002904334 (1993年(平成5)8月撮影)



## 北前区



普天間川左岸にある佐阿天原は1948年(昭和23)3月に居住許可されますが、1949年(昭和24)に軍用地として再接収され、1953年(昭和28)から1961年(昭和36)にかけて返還されていきました。返還地域は謝苜四区に編入され、1956年(昭和31)の再編で北前区となりました。

1977年(昭和52)と1981年(昭和56)に返還されたハンビー飛行場の跡地で1983年度(昭和58)から1990年度(平成2)にかけて北前土地区

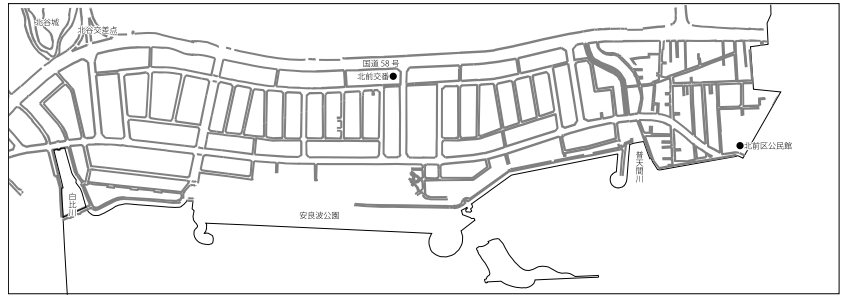
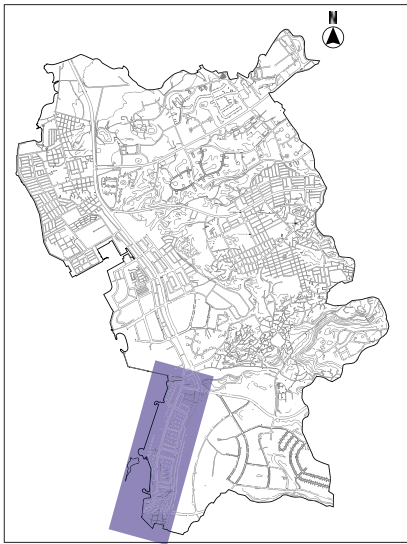
画整理事業が行われました。大部分が住居用地域で国道58号沿い及び地区中央部に近隣商業施設地域があり、大規模店舗を誘致することで地域の活性化を図りました。また、C・C・Z整備区域(コースタルコミュニティゾーン)として認定された海浜部には1994年(平成6)に安良波公園が開設され、1840年に安良波沖の環礁に座礁した英国船の乗員を北谷の村人が救助した出来事にちなんでインディアン・オーク号の遊具なども設置されています。

1984年(昭和59)



2010年(平成22)







A7002905010 (1994年(平成6)9月撮影)



A7002904262 (1993年(平成5)8月撮影)



A7002904253 (1993年(平成5)8月撮影)



A7002904355 (1993年(平成5)8月撮影)



A7002904251 (1993年(平成5)8月撮影)



影)



A7002903365 (1993年(平成5)5月撮影)



## 美浜区



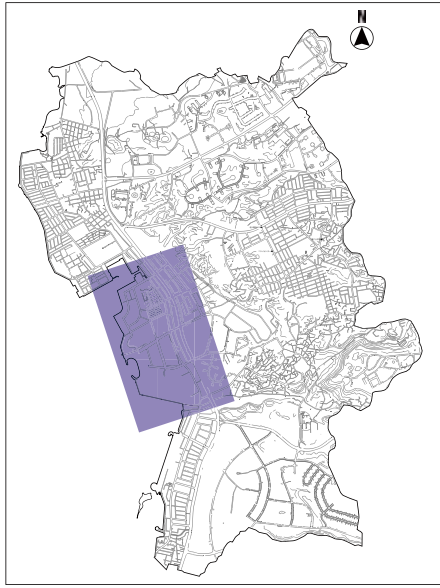
2003年(平成15)年4月1日に美浜区が誕生し、北谷町の行政区は11になりました。美浜区は1986年(昭和61)に竣工した桑江地先の埋立地及び1981年(昭和56)に返還されたメイモスカラ地区、2003年(平成15)に返還された伊平地区と役場周辺の桑江地区が含まれます。

桑江地先の公有水面埋め立て後は、1987年(昭和62)に北谷海岸コースタル・コミュニティ・ゾーン(C C Z)整備計画が県内初認定を受け、西海岸の開発が大きく進みました。1988年(昭和63)から海邦国体ソフトボール競技少年女子の会場に

なったソフトボール場やサンセットビーチなど北谷公園の整備が始まり、1994年(平成6)には「美浜リゾート開発基本構想」が発表され人気の観光地として認知度が高まりました。2003年(平成15)にはフィッシャリーナ整備事業が承認され新たな発展が期待されています。さらに北谷町役場周辺や伊平地区の区画整理事業が進むことで急速に発展していき、2003年4月に1,516人だった美浜区の人口は2021年1月末には2,741人へと1.8倍に増加しました。



1984年(昭和59)



2010年(平成22)



サンセットビーチ

キャンプ桑江

A7002903364 (1993年(平成5)5月撮影)



A7002904024 (1993年(平成5)8月撮影)



サンセットビーチ

A7002903312 (1993年(平成5)5月撮影)





桑江中学校



キャンプ桑江

浜川漁港

A7002903345 (1993年(平成5)5月撮影)



キャンプ桑江

県営美浜  
高層住宅

A7002904088 (1993年(平成5)8月撮影)



キャンプ桑江

影)



キャンプ桑江

A7002904133 (1993年(平成5)8月撮影)

## 【参考資料】

- 『基地と北谷町』（沖縄県北谷町、1984年）  
『基地と北谷町』（北谷町役場総務部企画室、2008年）  
『住民基本台帳法及び外国人登録法による世帯人口表 1993(平成5)～2004(平成16)』  
『北谷村統計書 昭和49年版』（北谷村役所、1974年）  
『北谷町史 第1巻』（北谷町教育委員会、2005年）  
『北谷町史 第1巻 附巻』（北谷町教育委員会、2005年）  
『北谷町史 第六巻』（北谷町役場、1988年）  
『北谷町の公園』（北谷町建設経済部施設管理課管理係、2012年）  
『栄口区10年のあゆみ』（沖縄県中頭郡北谷町栄口区自治会、1992年）  
C05T00442「平成15年告示原義 第1号～第52号」  
C89T00001「人口移動許可に関する書類 10月25日」

## 【写真出典】

3-6, 9-10, 13-14, 17-18, 21-22, 25-26, 29-30, 33-34, 37-38, 41-42, 45-46 頁

上記の空中写真は国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」から取得し合成して作成。

その他の写真は北谷町公文書館所蔵。

# 空からみた北谷

—空中写真でみる町の変化—

(展示)

日時： 2021年(令和3)3月19日～26日

会場： 北谷町役場1階 町民ギャラリー

発行 2021年3月19日

北谷町役場総務部公文書館

〒904-0192

沖縄県北谷町字桑江226番地

TEL 098-982-7739

